



カタリナ・カバ選手の豪快なサーブ

世界へ向けた熱い戦い

■ゴーセンカップ国際レディースオープンテニストーナメント

「ゴーセンカップ・スウィングビーチ牧之原国際レディースオープンテニストーナメント2015」が10月11日から18日まで、静波リゾートホテル・スウィングビーチで開かれました。

本大会は、日本女子選手がメジャー大会へ出場するための登竜門となっています。

シングルスは第6シードのカタリナ・カバ選手（ポーランド）、ダブルスでは久見香奈恵選手と高畑寿弥選手のペアが激戦を制し、見事に優勝を飾りました。

練習の成果をステージで披露

■第10回牧之原市文化祭 芸能発表会

市文化祭「芸能発表会」が10月4日、い〜らで行われました。

市文化協会会員による発表会で、総勢52組の個人や団体が出演し、歌やダンス、詩吟、三味線、民謡、舞踊など、日ごろの練習の成果を披露しました。

歌やダンスを発表した参加者は、ステージを降りた後、緊張も解け満面の笑顔を浮かべていました。また、会場では花の苗木がプレゼントされ、来場者は好みの花を選び、持ち帰りました。



ステージで軽快なダンスを披露するキッズダンサー

相良城主「田沼意次」の素顔を知る

■わがまちの殿様たち

相良史蹟調査会主催による市制施行10周年記念事業特別展「わがまちの殿様たち」が、10月24日から11月1日まで史料館で行われました。

特別展は、市の歴史と文化に大きな役割を果たした徳川家康公や田沼意次侯などを紹介するパネル31点と、県立島田工業高校の生徒が作製した駿府城が展示されました。

また、東京大学の藤田覚名誉教授による記念講演会も行われ、来場者は田沼意次侯について熱心に聞き入っていました。



田沼意次侯などについて語る藤田覚名誉教授



掛け声に合わせて勇ましく練り歩く船若たち

海の安全を祈願して出航

■神明神社の御船神事

市指定無形民俗文化財「神明神社の御船神事」（細江）が10月11日に行われました。

この神事は、江戸時代後期から続く、海運興隆と海上安全を祈願する伝統行事です。

長さ約2.6メートルの御船を「船若」と呼ばれる地域の青年43人が担ぎ、「ヤッサー、コラサー」の掛け声に合わせて、船が荒波を越えていくように激しく前後に傾けて練り歩きました。

集まった観客は、カメラのシャッターを切り、大きな歓声と拍手を送っていました。



景色を楽しみながら歩く参加者たち

牧之原市の山と海を堪能

■第1回まきのはらビタミンツデーウォーク

牧之原市制10周年記念事業「第1回まきのはらビタミンツデーウォーク」が10月17日、18日の2日間で行われました。

コースは、初日に「山」、2日目に「海」をテーマとした、それぞれ5・15・30キロメートルの計6コースが用意されました。

市内外から集まった約900人の参加者は、自分の体力や好みに合わせたコースを選び、市の名所を巡るウォーキングを楽しみました。

コース途中では呈茶サービスや宝探しゲーム、本会場では歌やダンスの披露などが行われイベントを盛り上げました。

参加者からは「景色がきれいで新鮮だった」、「気持ちよく歩け楽しかった」など、さわやかな汗をぬぐいながら話してくれました。

保健や福祉をもっと身近に感じて

■さざんかふれあい広場

さざんかふれあい広場が10月4日、さざんかで開催されました。

健康や福祉に理解を深めてもらい、子どもや高齢者、障がい者など地域住民の誰もが楽しめる場を提供しようと、市社会福祉協議会が毎年開催。

会場では、福祉やボランティア団体など計35団体がブースを出店し、活動のPRや飲食物の販売が行われました。また、川崎幼稚園の園児によるマーチングバンドやはいばら太鼓の演奏なども行われ、多くの来場者でにぎわいました。



福祉やボランティア団体がブースを出展し活動をPR



日ごろの練習成果を発表する児童たち

美しい歌声がい〜らに響く

■南地域小学校音楽発表会

「榛原地区南地域小学校音楽発表会」が10月2日、い〜らで開かれ、牧之原市と吉田町の児童741人が参加しました。

各校は、持ち時間の10分の中でそれぞれの学校の特色を出し合いながら、合唱や合奏、オペレッタ（軽歌劇）など披露しました。

児童らは、夏休み前から授業や放課後などで練習を重ねてきた成果を発揮し、発表が終わるとステージ上の児童へ、他校の児童から盛んな拍手が送られていました。

ズームイン！
カシャ！！



広報担当がどこにでも取材に行きます。
あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

秘書広報課 ☎0052 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp